

河合栄治郎 (かわい・えいじろう) 1891~1944

社会政策学者・教育家 ~闘う自由主義者~

出生 1891年(明治24)2月13日、東京府南足立郡千住町(現・足立区千住)に酒販売業を営む財産家の次男として生まれる。戸籍関係の誤りで「栄次郎」と記帳されるが終生「栄治郎」で通した。

履歴 東京帝国大学法科大学政治学科卒業(1915)。農商務省商工局工務課に勤務し、工場法研究のためアメリカ出張(1918~19)。第一回ILO会議への日本政府方針草案を起草したが、上司との意見対立により辞職し東大経済学部助教授となる。のちに経済学部長。1922年、1932年に2度ヨーロッパへ留学し、帰国後は左右両翼と活発な論戦を展開した。軍国主義攻撃などにより1938年著書発禁、警視庁・検察庁の取り調べを受け、翌年東大教授を休職となる。1943年大審院の上告棄却により有罪判決を受ける。

事績 個人の人格完成を最高善とする理想主義の立場からイギリス労働党流の社会主義思想を体系化し、現実社会に対応し得る自己の思想体系樹立を目指した。一方同様の立場からマルクス主義批判・ファシズム批判を貫き、戦闘的ジャーナリズム活動を展開した。同時に実践的教育者として、『学生叢書』や『学生に与う』等を刊行し学生・青年の内面的成長を願い、また多くの門下生を各界に輩出した。死後その遺志を受け継いで「社会思想研究会(出版部はのちの社会思想社)」が設立され、現在も「河合栄治郎研究会」による活動が続いている。

評価 戦時下という閉塞した思想状況の中、理想主義的個人主義に立脚する主張・行動を厳しく貫いた最後の自由主義者として、門下生や著作を通し広い影響力を持ち続けている。一方、その自由主義の内包する問題性や、マルクス主義を批判しつつもその影響から脱しきれていないなどの指摘もあり、思想家としての今日の評価は分かれている。従来河合研究は門下生等を中心としたものであり、客観的な視点に基づく再評価が必要とされている。

代表作

『社会思想史研究』18世紀後半から19世紀中頃までの英国思想史をもとに、自由主義という思想が個人主義から始まり、過渡的段階を経て集団主義を含むものとなる過程を追及した著作。東大における経済学史講義をもとにしている。全集第4巻に収録。

『社会政策原理』社会問題についての総論を述べた教科書。社会政策の対立を、国家主義と個人主義、社会改良主義と社会主義、自然主義と理想主義との対立として捉え、著者はそれぞれ後者の立場からマルクス主義を批判している。全集第3巻に収録。

『トーマス・ヒル・グリーン の 思想体系』イギリスの理想主義哲学者グリーン の 思想体系を詳細に紹介したもの。現在のグリーン研究に今なお影響を与えている。全集第1・2巻に収録。

神奈川 週末を箱根仙石原の俵石閣で過ごすことが多く、1928年より亡くなる前日まで月に数度訪れている。著述と読書の大部分がこの宿で行われた。

最期 1944年(昭和19)2月15日、バセドー氏病による心臓麻痺のため自宅にて死亡。享年53歳。



Great Works 27

河合栄治郎全集 全24巻 社会思想社 1967~1969 <308/36>

解題 河合栄治郎ほど自己を語ることの多かった思想家は稀であろう。彼の門下の人々によって編集された全集には、自伝的な文章が多く収録され、さらに彼の日記には、彼の生活と思想形成の過程が克明に記録されている。筆禍事件以来いっさいの著述の道が閉ざされたのちにも、心境、随想、回顧などの形で記された文章が、遺稿としておびただしく残されている(山下重一著「河合栄治郎 戦闘的自由主義者」より)。著作集としては他に「河合栄治郎選集」(日本評論社 1948-50 全10巻)がある。

内容

第1巻 トーマス・ヒル・グリーン の 思想体系 [日本評論社 1930年]

第2巻 トーマス・ヒル・グリーン の 思想体系 [日本評論社 1930年]

第3巻 社会政策原理 [日本評論社 1931年 1935年改訂版]

第4巻 社会思想史研究 [岩波書店 1923年 1940年増訂版]

第5巻 英国社会主義史研究 [社会思想研究会出版部 1948年 一度目の欧州留学後に発表した論文集]

- 【論文】英国労働史上に於ける石炭罷業 [1926年]
- 第6巻 欧洲最近の動向 [日本評論社 1934年] 英国労働党のイデオロギー [千倉書房 1929年 九州書院 1947年]
- 第7巻 社会思想家評伝 [日本評論社 1936年 ベンサム、ミル、グリーン、ラッサールの思想をその人間像を通じて浮かび上がらせようとしたもの]
- 第8巻 明治思想史の一断面 [日本評論社 1941年 岳父である経済学者金井延の評伝]
- 第9巻 自由主義の歴史と理論 [社会思想研究会出版部 1948年 東大経済学部の特別講義] 【論文】ドイツ社会民主党史論 [1936年 東大経済学部の特別講義]
- 第10巻 労働問題研究 [岩波書店 1920年 農商務省在職中の論文集]
- 第11巻 ファシズム批判 [日本評論社 1934年 満州事変以後の軍部行動を社会思想の面から批判]
- 第12巻 時局と自由主義 [日本評論社 1937年 1938年発禁処分を受ける。「二・二六事件の批判」「時局に対して志を言う」等の論文を含む] マルクシズムとは何か [タイムス出版社 1932年 (非売品)]
- 第13巻 社会思想と理想主義 [実業之日本社 1947年] 私の社会主義 [社会思想研究会出版部 1950年 出版法違反で起訴された際に法廷へ提出した上申書]
- 第14巻 学生に与う [日本評論社 1940年] 国民に想う [日本評論社 1941年 発行前に発禁となる]
- 第15巻 大学生活の反省 [日本評論社 1931年] 書齋の窓から [日本評論社 1932年]
- 第16巻 第一学生生活 [日本評論社 1935年 1937年改訂版 旧制高校および大学の学生のために書かれたもの。農商務省を辞職するにあたり「朝日新聞」に掲載した「官を辞するに際して」を収録]
- 第17巻 第二学生生活 [日本評論社 1937年] 在欧通信 [改造社 1926年 イギリス等への留学記録]
- 第18巻 学窓記 [社会思想研究会出版部 1948年 学生叢書刊行中の随想]
- 第19巻 学生思想問題 [岩波書店 1932年] 【論文】時事評論集 [全集のために付けられたタイトル。以下の論文を含む] マルクスより出でてマルクスを克服するもの [1929年] 現代学生とマルキシズム [1930年] 混沌たる思想界 [1934年] 科学・哲学・大学 [1938年] 時局・大学・教授 [1938年] 他
- 第20巻 随想集 [1934年以降に発表された随想 16編] 研究ノート [西田哲学研究 理想主義体系 カント研究 読書ノート] 資料 [総長への上申書 上申書草稿 研究所設立趣意書]
- 第21巻 裁判記録 [東京地裁における第一審を中心とした記録。自身の思想体系を明らかにしている]
- 第22巻 日記第1 [1920~1929年]
- 第23巻 日記第2 [1932~1944年]
- 別巻 河合榮治郎伝 [江上照彦著 社会思想社 1971年] 著作目録 年譜

参考文献 ~この人をもっと知るために~

<図書>

- 📖 戦闘的自由主義者河合榮治郎 / 松井慎一郎著
社会思想社 2001年 278p <289.1KK / 4082> 資料番号 21368261
- 📖 河合榮治郎 闘う自由主義者とその系譜 / 粕谷一希著
日本経済新聞社 1983年 252p <289.1P / 2051> 資料番号 12361457
- 📖 河合榮治郎教授 / 江上照彦著 (全集別巻に「河合榮治郎伝」として収録)
講談社 (講談社学術文庫) 1981年 421p <289.1 / 1848> 資料番号 10538924

<図書(部分)>

- 📖 河合榮治郎の日中戦争論 / 大杉一雄著 (日中十五年戦争史)
中央公論社 (中公新書) 1996 p334 - 347 他 <210.7EE / 342> 資料番号 20816757
- 📖 河合榮次郎の自由主義論 / 武田清子著 (日本リベラリズムの稜線)
岩波書店 1987 p259 - 304 <121.9W / 165> 資料番号 12301727
- 📖 河合榮治郎 / 田久保忠衛著 (言論は日本を動かす 第5巻)
講談社 1986 p187 - 214 <281T / 122 / 5> 資料番号 12357190
- 📖 河合榮治郎の自由主義史段階論 / 若松繁信著 (国家的統合過程の諸相)
南窓社 1983 p185 - 212 <313S / 38> 資料番号 12397139
- 📖 河合榮次郎 戦闘的自由主義者 / 山下重一著 (日本の国家思想 下)
青木書店 1980 p229 - 263 <311.21 / 10 / 2> 資料番号 20575783

<雑誌論文>

- 📖 河合榮治郎の実像を追って / 道正健太郎著
神奈川県立図書館紀要 (神奈川県立図書館) 5 [2001.3] <ZT097 / 6>
- 📖 河合榮治郎の愛国自由主義 批判精神と祖国愛の論理 / 中谷猛著
立命館大学人文科学研究紀要 (立命館大学人文科学研究所) 70 [1998.2] <Z0516 / 23>